ECO village SHELTER project

こどもたちのための持続可能な森づくりと里山保育「ぐーるりの森のこどもえん」

助成区分	植栽	環境保全	調査・研究	教育・啓蒙

実施状況	整備・設え活動参加人数(延べ)	312名	こどもえん参加人数（延べ、子供のみ）	278名	活動の全体目標に対する達成度	80%

活動目的

自然と人との関わりが希薄になり里山の荒廃が叫ばれる現代、、子どもたちが森でのびのびと遊び学べる空間や時間は乏しい。そうした機会を創出することが、次世代へとつながる持続可能な森づくりへつながると考え、年間を通じた森林整備活動および環境教育活動を行うことを目的とする。

活動内容

＜森の整備活動＞
間伐・枝打ち・下草刈り・植樹などの森林整備活動を、団体の定例活動として月1回行うほか、木こり体験のワークショップを開催して行う。整備を通して、遊歩道や広場の造成を行う。
＜設え作業＞
整備で出た材を用いて、デッキや遊具、ティピーなどを制作し、秘密基地のような村を森の中に作る。制作時には、子どもたちを含む広く一般の方々に参加を募りワークショップも行う。
＜里山保育活動＞
　整備された森を活用し、里山保育「ぐーるりの森のこどもえん」を開園する。市街地に住んでいる、森と触れ合う機会の少ないこどもを主たる対象とし、初めの1年は月2回程度の自然体験プログラムとして実施する。

成果

・整備活動により、昨年度までに手入れしていた約3haの空間を、維持・管理しながら、新たに松枯れ地帯約500㎡の手入れを行った。危険な松枯れは会員による定例活動で除去し、細木の間伐、材の集積を子どもたちやその保護者と共に行い、そのエリアをおいしい森と命名し、森の中にあった幼木（栗、クルミなど）をみんなで植樹した。
・設え活動では、間伐材を用いて制作していた大型ティピーを完成させた。雨天時や冬期はティピーの中でたき火を楽しんだりしながら、そのときならでは自然を楽しんでもらえたと感じる。また、こどもえんに参加するこどもたちをひみつ基地を作るプロジェクトを行い、その基礎となるツリーデッキを制作したほか、森の各所に丸太椅子やブランコなどの遊具、木のネームプレートを取り付けた。
・里山保育活動を始めたことにより、団体や活動、活動拠点である「ぐーるりの森」の認知度を高めることができ、より一層、こどもたちと森をつなげることができたと感じる。

工夫した点

里山保育活動は、「体いっぱい自然を感じる日（小さい子向け）」と「見よう見まねで挑戦する日（大きこ向け）」の2回に分け、必要とされる形を検討したほか、1日コースと半日コースから選べたり、保護者の見守り参加を許容するなど、参加者がそれぞれの都合に合わせて選んで参加できるように工夫した。リピーターが大変多く、森に通うにつれ、子どもたちはもちろん、保護者の方々とも親密な関係を築くことができ、理想とするこどもえんの形を話し合うことができた。現存する森のようちえんやプレイパークのスタイルに固執せず、地域に必要とされる相応の活動へと展開できている。

今後の課題

・平成30年は冬は大雪、夏は猛暑に見舞われ、予定していたこどもえんを全部で5回も取り止めせざるを得なかった。荒天の場合は仕方ないにしても、天候の影響が少なく、活動自体を行えるような屋内の拠点の検討が必要だと感じた。
・小さい子向けの回は保護者の方の付き添いが多かった。この保育活動とは別に、親子プログラムへの展開の必要性を感じた。